

同窓会だより

●発行

千葉県立船橋高等学校同窓会

〒273-0002 千葉県船橋市東船橋6-1-1

ホームページ <http://www.dosokai.ne.jp/kenfuna/>

E-mail funaobog@gmail.com

●印刷 (株)サラト

姫路市北条宮の町172番地

TEL 079-284-1380

題字／小原天籟先生

千葉県立船橋高等学校創立百周年

記念式典および記念講演を終えて

令和2年11月18日、創立百周年記念式典・記念講演をオンラインで実施しました。昨年度、会場を船橋アリーナとすることを決定した矢先、年度末から新型コロナウイルス感染症が拡大。オンラインでの実施が決定したのが、今年度の9月のことです。本校では、この状況下でも、これまでの教育活動を可能な限り実施したいと考え、G suite for Educationを導入。こうした環境があつて、式典・講演部会ではオンラインでの実施を提案しました。

アリーナで一体感を持つて式典や講演に参加するのは違い、各教室に分かれて視聴することで在校生の心にどの位のものが残るのだろうか。本来ならば、記念式典に臨席するはずだった、多くの同窓生や旧職員、保護者の皆さまにも、視聴していただけないだろうか。そうしたことを考える日々が続きました。会議システムGoogle meetを使用し、視聴にはYouTubeと心づもりが決まったのも、地道な練習を重ねてのことです。さらに、式典と講演を繋ぐ休憩時間に、

オンラインならではの動画を上映してみようと考えました。「現在の高校生」の横顔」「船高今昔物語」「未来へのパト」の3つのパートを構成。これには、多くの在校生が写真や



分整備されたこともオンラインを後押ししてくれました。そして、式典当日は接続等の準備を生徒たちが行うなど活躍したのです。迎えた当日、メイン会場を第一会議室として、来賓の皆様をお招きします。酒匂校長、藤代百周年実行委員会委員長の式辞が続きます。百年の道のりをそれぞれの立場から紐解き、その道程に耳を傾けました。野田元首相の祝辞には、高校時代にタイムスリッ



メッセージを寄せて、協力してくれました。ジャズバンド部・オーケストラ部・合唱部の演奏をバックミュージックに使うなどを工夫。今昔物語では船高の歴史を垣間見て、きつと皆、楽しんでくれるだろうと考えたのです。一方、オンラインで実施するにあたり、先生方の協力なしでは実現しないと考え、Google meetを自由に利用できる先生を増やそうとオンライン練習会を試みしました。徐々に、仲間が増えていくのを実感。百周年を記念して、教育関連備品充実の一つとして、プロジェクトとスクリーンがクラス

同窓生 & 在校生

(令和2年10月1日現在)

同窓会会員総数 35,117人
 名簿登録数 34,737人
 内全日制28,303人 (中学含む)、
 定時制5,274人 (農業科含む)、 恩師1,160人
 住所不明者数 12,170人

在校生

全日制 男614人 女468人 計1,082人
 定時制 男138人 女 86人 計 224人
 教職員 全日制84人 定時制32人
 (内同窓生16人)
 計 116人

今年度「春の同窓会」は開催しません

プした気持ちになり、身振り手振りを交えたお話に、自然と拍手が沸きます。松戸船橋市長から、さらに祝辞をいただき、全日制生徒会長、吉田さんが緊張の面持ちで生徒を代表して挨拶をされました。こうして、若干のアクシデントもあったものの記念式典を無事に挙行でき、半分肩の荷がおりた気がしたのです。休憩時間を利用しての百周年記念動画の上映。テセレーションが少しずつ完成に向かう度に、教室からの歓声が届きます。2年生からの長いメッセージに船高への愛を感じ、メイン会場も和やかな空気が流れました。



記念講演ではアニメーション映画「この世界の片隅に」の監督、片淵須直氏の登場です。高校時代は、視聴覚委員会の委員長を務め、その後の人生を決める出会いをされます。文委委員長の山田さんがその人。文化祭の記録映画を残したいという願いに込めて、徹夜で編集したことが、自分の映画づくりの原点だと、大事そうに8ミリカメラを手にして、静かな語り口で振り返ります。卒業後も後夜祭のステージにふたりして上がる数年間、そして、後輩とのジエネレーションギャップを感じ、「俺たちの時代は去った」と二度と戻らないことを決めたあの日。セピア色の世界が私たちの前に広がっていきました。

高校では映像はもろんだだけでも、音楽との出会いが大きかったとの話もされていました。一つ一つの出来事が片淵さんを育てていく様子が目に浮かびます。当時を懐かしむような視線がとても印象



的でした。

なぜ、この記念すべき講演が自分に託されたのだろうと、自問されたそうです。長い歴史の中にも、それぞれの生活があり、青春を謳歌した時がある、そこに思いを馳せるといふ視点を、映画製作をする上で、大切にされてきました。そうしたことを伝える役割を果たすのだと、かみしめるように話されます。

市井の人の日常は、時に笑いあり、時に涙あり、戦時下であっても続いていきます。モンペは身動きが取りやすいためではなく、身体を温めるためにできたものだ。個々の生活を再現するため、丹念に調べていく中でわかったことの一例です。このような積み重ねがあつてこそ、個にスポットをあてられるのです。映画監督としての信念を見たような気がしました。その思いは次代を担う生徒たちの心に真つ直ぐに届いたのだと信じています。そして、定時制生徒会長、鈴木さんから、「片淵さんのように、自ら決めた道をしっかりと進んでいきたい」と、決意を込めたお礼の言葉と共に、記念講演は終了しました。

確かに、それぞれが船高に足跡を残し、次の世紀は続いていきます。船高よ、永遠なれ！


(式典・講演部)



2,000枚弱の写真で作ったテセレーション

今の船高は、とても古い校舎で金欠で、我慢を強いられる部分もありますが、元気な子、真面目な子、おしゃれな子、オタッキーな子…本当にいろんな人がいて、その一人一人が互いを認め合い、輝かせあうことのできる、とても素敵なところです。他にはこんな多様性のある学校ないんじゃないでしょうか。そんな船高が、この先もずっと活気で溢れますように！

2年 M



創立百周年記念動画からのカット
生徒からのメッセージ

百周年によせて

千葉県立船橋高等学校創立百周年記念事業
実行委員会実行委員長



藤代孝七

寒冷の候、同窓会会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。
さて、母校千葉県立船橋高等学校の創立百周年を祝い、記念式典を執り行うにあたり、二年前に実行委員会が発足しました。

そこで記念事業の一環として、同窓会OBはじめ、関係各位に寄附をお願いしたところ、千八五十万円を超える寄附金が集まりました。皆様の大変なご協力に感謝申し上げます。使途につきましては、学校側の要望により、教育活動、部活動等に使用して頂くことになりました。なお、記念事業は継続しておりますので、事後、改めて決算報告をさせていただきます。

また、当初、記念式典は皆様のご出席を賜る予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、実行委員会、同窓会、学校と協議した結果、式典をオンラインで実施することに致しました。その旨ご理解をお願いいたします。

私事になりますが、私は、在学中は柔道部に籍を置き、日々鍛錬に明け暮れておりました。卒業後、今までの長い人生の中で、いろいろな難局に遭遇してきました。右に行くか左に進むか、大きな判断を余儀なくされてきたのです。その時支えになったのが、船高時代の学業や部活動を通して、恩師の教えや友人たちとの絆でした。そして、何より勇気をもらったのが、校歌の二節
♪ 大空うつつして…
ひねもすたゆまぬ 努力の姿
でした。

この一節を口ずさむと、不思議と「やる気」が湧いてきました。思えば、船高の魂、学徳とも言えるの

でしょう。愛する母校は、いくつになってもありがたいものです。きつとじこたにも思い当たることと思います。

本校は、一九二〇年、船橋の地に呱呱の声をあげました。それから百年、幾多の学制改革を経て、本地に根を下ろし、今日に至っております。

文武両道にわたる母校は、千葉県冠たる高等学校として燦然と光を放っております。OBの人たちは、多方面に渡って全国的に活躍されており、在校生の皆さんも、船高生としての誇りを胸に、夢を大きく、世界に羽ばたいていくこととしよう。
「若くして学べば 壮にして為すあり」と言います。

青春時代の学びは人生百年の基礎を作ります。米光の歴史に立つ母校には、先生方、よき友、教育環境において、学ぶに足る十分なものがそろっています。在校生の皆さん、志を高く、悔いのない船高生活を邁進してください。

本校が今日に至るには、先人たちが、母校に関与された方々の、並々ならぬご苦労がありました。ここに、改めて深甚なる謝意を表する次第であります。

今、創立百年の節を刻み、船高は、新たな創訓「専心研学」の旗を掲げました。伝統に根づいた「船高スピリット」の涵養に向けて、「船高第二世紀」への船出であります。

母校創立百周年を迎えて



同窓会会長
子安啓司
昭和43年卒

母校、千葉県立船橋高等学校は創立百周年を迎え、令和2年11月18日(水)には、新型コロナウイルスの関連でリモートとなりましたが、記念式典・片瀝須直氏の(昭和54

年3月卒業)記念講演が行われました。

この式典の様子等を入れて来年3月には百年史記念誌が発行されます(別紙面に実費頒布案内あり)。記念事業に当っては、多くの同窓生の寄付を賜り有難う御座いました。(寄付者名簿同封・事業収支明細報告は後日、寄付御札にさざりかではありませんが、生徒主導で決められた「スカーカラー青」の「百周年ロゴマーク」とこの期に決めて頂いた校訓「専心研学」が刻まれたボールペンを落筆いただいたと思えます。できれば、生徒・PTA・全学校職員・多くの卒業生一堂に会し、式典に臨み、生徒を除き祝賀会で百周年を祝いたかつたものです。

然し、東京オリンピックさえ順延せざるを得なかつた新型コロナウイルス蔓延のために、縮小した式典となったことは、残念でありました。また、建学の1920年は第一次世界大戦を踏まえて国際連盟が設立した年であるように、我が国は株値大暴落、戦後の恐慌の真只中でした。然もパンデミック百年周忌説ではありませんが、1720年ペスト、1820年コレラ、1920年当時のスペイン風邪は全世界人口20億人のうち5億人が感染したと言われています。母校はまさにこの政治・経済・感染症蔓延の困難な時期に、建立されたのです。その後、関東大震災、世界恐慌、第2次世界大戦など様々な困難に遭遇しながら、百周年に繋いでいただいた教職員、教育関係者、諸先輩同輩後輩、PTAの方々のご苦労とご努力を、この疫病禍だからこそ、改めて思い至らせていただきます。

ただただ家庭に居るだけの私の目に、地方版スポーツ欄ですが、ゴシック初号の「船橋 投打で庄則」と適時打を放つ森王将の写真が入りました。千葉県独自大会の初写真が入りました。3回戦4回戦の勝ち進みも記事もある「文武両道」の母校生徒、放送委員会や合唱部などは常に全国レベルで活躍しているのにと想像される方もいらっしゃると思いますが、OBとして嬉しかったし又気付かされてきました。このコロナ禍の影響を最も受けているのは、本来ならオリンピック開催に合わせ輝かしい百周年に最上級生

として参加できる3年生でありました。

それが、数々の行事は中止、休学時期があった為5分短縮制限とは言え追加された過密授業、夏休みを短縮され、一大学試験日直前に罹患したら」の不安の中、自身及び家族の感染を心配しつつ受験勉強をしなければなりません。次の強豪習志野高に敗戦は残念でしたが、疫病禍の懸念を打ち払ってみせた一打だったと思います。今年度の3年生諸君は、真に厳しい状況ではありますが、これを発条に創立百周年卒業生に相応しい活躍をしてくださいと確信しております。

創立七十年・三代川幹夫会長、八十年・小石税会長、九十年・金子英雄会長のご指導を受け微力ながら同窓会活動に参加し、引き続き来て同窓会長職を本年度で退任し、島崎喜二副会長に引き継ぐこととなります。コロナの影響もあり思い描いた事業とは違うものとなりましたが、多くの同窓生のご協力の下、百周年記念事業を達成できました。改めて、藤代孝七実行委員長、元会長各位、同窓会理事、同窓生、同窓生初の校長酒匂一揮先生はじめ教職員、PTAの皆さまに深く御礼する次第であります。

OB校長として



校長
酒匂一揮

同窓会の皆様には、日ごろから本校の教育活動への御支援、御協力を賜りますことに、心より感謝申し上げます。

令和2年4月に、歴史と伝統のある県立船橋高等学校の校長に着任しました酒匂一揮(ささぐ)かずきと申します。私は、昭和55年3月に本校を卒業したOBであり、40年ぶりに通うこととなりました。本校にとって初めてのOB校長であることに加え、記念すべき創立百周年事業にかかわらせていただくことに、大きなやりがいとともに大きな責任を抱いております。

本校の現状ですが、全日制では、大学入試方法がなかなか定まらなかつた昨年

度において、国公立大学合格者数が県下で最多となるなどさまざまな進路実績をあげ、「船高」の名をさらに轟かせております。在校生においては、今年度、新型コロナウイルスの感染拡大防止により、文化祭などの学校行事や各部活動の大会が中止に追い込まれる中、揺れる心を抑えながらも学業に励んで、定時制では、学び直しの機会を求める生徒や勤労学生たちが、幅広い年齢層の仲間から大いに刺激を受けながら熱心に勉学に励んでおります。全定時とも部活動の各種大会が中止となったことから、毎年掲載しきれないほどの部活動の輝かしい記録が紹介できないことをとても残念に思っています。

百周年記念式典につきましては、これまで、同窓会役員をはじめ関係者の皆様の御尽力をいただきながら進めてきたところですが、11月18日(水)に、当初の船高アリーナでの開催から、オンラインでの開催に変更することとなりました。他の記念事業につきましても、私たち職員は、同窓会の皆様と協力して、感染拡大防止を最優先に考慮しながら、事業の成功に向け、準備に全力で取り組んでおります。

同窓会会員の皆様方には、さらなる母校への御支援と御協力をよろしくお願い申し上げます。

ご挨拶



定時制副校長
高橋重幸

本年四月、母校の定時制に着任いたしました高橋と申します。どうぞよろしくお願いたします。同窓生の皆様には、日頃より本校の教育活動に御支援、御協力を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、一九二〇年の建学から百周年、おめでとうございます。各界で御活躍の同窓生の報を聞くに嬉しく、また誇りに思っています。三十八年ぶりに校舎に入ると伝統を感じさせる老朽化ぶりですが、中はあの頃

のままで、青春の日々が思い出され胸が熱くなりました。

折しも世の中はコロナ禍、学校もウィズコロナで日々活動しております。登校時の検温、マスク着用、様々な行事が中止となりました。今後も感染拡大防止に取り組んでまいります。

定時制は二、三年に行徳高校の定時制と統合し、県内初の定時制総合学科としてスタートします。次の百年を目指して、職員一同努力して参りますので、今後とも御支援、御協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

最後にになりましたが、三月に急逝された同期の佐藤理史君(前教頭)のご冥福をお祈りいたします。佐藤君、ありがとう。(昭和五十八年卒)

ご挨拶



全日制教頭 安田 国士

本年4月に教頭として着任いたしました安田と申します。よろしくお願ひ申し上げます。

同窓会の皆様には、日頃より本校教育活動に多大なる御支援を賜り、心より御礼申し上げますとともに、心強く感じております。

私は、普通高校での勤務は初めてであり、伝統ある進学校、更に百周年を迎えた年でもありますので、未だに新しい発見のある毎日を通じております。

本校は、文部科学省指定のスーパーサイエンスハイスクール(3期目)であり、合わせて高大接続の研究開発にも取り組む重点校は全国唯一、本校だけが指定を受けております。また、千葉県教育委員会からは進学指導重点校の指定も受けており、学校全体で先生方の熱心且つ濃密な御指導により、様々な成果をあげています。

本年はコロナ禍での高校生活のスタートとなつてしまいましたが、現在では百周年記念式典をはじめ学校生活全般で、新しい生活様式を取り入れる

べく工夫をしております。未だ制限のある学校生活ではありますが、生徒たちが学習や部活動に積極的に活動する姿を見て、またその生徒個々に寄り添った丁寧な指導をする先生方の姿があり、船高の良き伝統を感じ取ることができ

ます。先輩である同窓生の皆様から来た伝統を次代を担う生徒たちに引き継げるよう校長指導の下、努力してまいります。今後とも、同窓生の皆様からの御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

ご挨拶



事務長 上野 宏枝

今年度4月より事務長として着任いたしました上野です。よろしくお願ひいたします。

同窓会の皆様には、日頃より教育活動にまた、今年度は創立百周年を迎えるにあたり御理解、御協力を賜り心より感謝申し上げます。

残念ながら、新型コロナウイルス感染症の影響で、百周年記念行事等も大幅に見直しとなってしまいました。

千葉県県有建物長寿命化計画が一部見直しされ、船橋高校は今年度から計画がスタートする予定です。令和4年度には、仮設校舎を建てる等の改修工事が開始となり、該当する建物全ての改修が終了するのは令和9年度頃となる見込みです。

また、令和4年度には行徳高校定時制と統合し総合学科へ改編されます。それに合わせて食堂等の改修工事も行われる予定です。暫くは、工事と共存しながら、学校生活の環境は大幅に変わってまいりそうです。

今後とも、船橋高校の更なる発展に向け、皆様の変わらぬ御支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和元年度決算及び令和2年度予算

Table with financial data for 2019 and 2020. Columns include: 科目 (Category), 2年度予算 (2020 Budget), 元年度予算 (Previous Year Budget), 元年度決算 (Previous Year Actual), 30年度決算 (30th Year Actual). Rows include: 1. 収入の部 (Income), 2. 支出の部 (Expenditure), and 合計 (Total).

令和2年度の同窓会 (総会報告)

今年度の春の同窓会は開催しません

令和2年度の同窓会事業は「コロナ禍」での運営にならざるを得ず、事業の縮小、中止等もやむを得ないと判断いたしました。このため、学校行事への参加を見合わせ、6月の理事会は中止し、8月の総会は来場者を制限(各学年1名等)として開催しました。事業計画等議決事項は次の通りです。

1 百周年記念事業

総会時点で、母校百周年記念事業は、期日・11月18日、場所・船橋アリーナ、事業家・片淵須直氏の講演等と報告があり、式典招待対象者は、コロナ禍で会場の入場制限があるため、百周年記念事業寄付者全員から理事のみへと縮小、と報告させていただきました。

その後、船橋アリーナでの開催を断念し、学校でのリモート開催と変更されたため、実行委員のみが参列しました。

2 百周年祝賀会

記念式典に引き続き、同窓会主催の祝賀会を予定していましたが、上記のとおり招待者を絞ったことや、多人数の会食はコロナ禍にあつて不可能であるとの判断により中止としました。

なお、今後の状況の推移によっては別日程での「祝賀会」も検討の余地はあります。

3 春の同窓会

春の同窓会は総会時点で会場を決め、案内等準備を進めなくてはなりません。案内等準備が進めなくてはなりません。案内等準備を進めなくてはなりません。

4 同窓会ゴルフ大会

今年度は中止とします。

5 役員改選

現下の状況に鑑み、現在の役員を1年度限り留任とします。また、次年度は会長を現副会長・島崎喜一(昭和48年卒)とし、改めて、副

会長等役員の名を行つこととします。なお、総会には出席44名、委任状25名でした。

同窓会だより 本号をもって、全会員への送付は終了しました。次年度以降は同窓会運営費、百周年寄付金未納の方等には送付いたしませんので、ご了承ください。

百周年記念事業にご協力賜り、ありがとうございます。

百周年記念事業

10月25日に船高vs神奈川県立湘南高等学校の野球対戦が行われ、11月18日には昭和54年卒、アニメ映画監督片淵須直さんを講師に迎えた記念講演と記念式典が成功裏に挙行されました。(詳細は別葉にて) 本来であればお知らせしていたとおり、記念事業寄付金納付の皆さんをご招待申し上げるべく計画しておりましたが、コロナ禍にあつて、ご招待を断念せざるを得ませんでした。諸事情、拝察くださり、ご理解賜りたく存じます。 同窓会副会長 島崎喜一(昭和48年卒)

我が同窓&恩師探訪

創立百周年記念式典を挙げる今年度、全日制、定時制合わせて総勢16名の卒業生が、船高に勤務しています。在籍した年度はそれぞれですが、この記念の年を母校で迎えられる私たちは、とても幸せ者だと皆思っています。微力ではありますが、後輩たちを支え、母校の発展のために頑張る所存です。在学時の思い出と、日々どのような気持ちで生徒と向き合っているか、綴ってみました。

山田敏明 (国語科)

『船高百年史』編纂中。伝え遺したいことは全て入っています。各図書館にも置きます。同窓生の皆さん、ぜひ読んでください。

宮崎春菜 (国語科)

- (放送委員会の先輩方の応援も含めて)全国各地に行けたのはいい思い出です。
- 成らぬは人の為さなりけり

中松道夫 (公民科)

- 運動会の色別対抗リレーのアンカーで爆走したが、ゴール直前でコケた。
- 勝つと思うな、思えば負けよ。

日暮剛平 (地歴科)

- 下グラウンドで来る日も来る日も白球を追いかけて汗を流したこと。
- 練習(努力)は不可能を可能にする。

北澤智恵子 (養護)

- 定卒業です。夜の給食が楽しみでした。
- 人生、楽しんでくださいね。皆さんのご活躍を期待しています!



吉野深雪 (数学科)

- 食堂の土曜日メニューうどんとラーメンの懐かしい味!
- チャレンジすることを恐れないで。

小西広大 (数学科)

- スポーツ大会円盤投げで入賞したこと。
- 船高での「今」を思いっきり楽しんでください。

鳥飼一城 (保健体育科)

- 柔道部のユニークな先輩や同級生とともに歩んだ日々、最後の総体での躍進。
- 勝って何糞、負けて何糞。簡単に現状に甘んじるな。

増田雄二 (保健体育科)

- 野球に打ち込んだ毎日。地理の近藤先生の強烈な名言の数々。
- 困った時は先輩を頼りなさい、そして将来の後輩の力になってあげてください。

小原 稔 (地学科)

- 1年生の時、机面で定時制の生徒と真剣に文通していたこと。
- 難題にあたっては、躊躇なく力を借りるべし。

大堀孝宏 (化学科)

- 今思えば、自由に活動させてくださった当時の先生方に感謝です。
- 母校9年目。自律できる素直な生徒達ですが、もう少し自立してもいいかなと感じます。

内本真司 (物理科)

- 上グラで7day/week練習1日だけもらった休みに中長全員でTDL。風邪で欠席した1名にみんなでjogしてお土産を実家に届けた。
- 全力で楽しもう!

阿部理沙子 (SSH事務)

- 硬式テニス部に所属。素晴らしい仲間恵まれ、幸せな三年間でした。
- 卒業から何十年も経って、ご縁があり、今、船高に微力ながら貢献できること光栄に思っています。

巽 正裕 (英語科)

- 二つとも今はない1年生の時の林間学校と体育祭の組み体操が懐かしい。
- 自分のことは自分でやろう!

船高の歴史 (二五)

新制高校初代校長山口久太先生のこと

―船高の「疾風怒濤 Sturm und Drang」時代―

小川信雄 (元千葉県立千葉高校教諭、一九六三年卒業)

一九四八(昭和二三)年四月一日に新制高校が発足。五月一日に千葉県立船橋高等学校開校式が...

山口先生は一九二(明治四四)年四月二六日に佐賀県東松浦郡相知町(現唐津市)に鍛冶職を営む父正太郎・母セツ子の三男(姉一人)の兄に生まれ...

山口先生は一九二(明治四四)年四月二六日に佐賀県東松浦郡相知町(現唐津市)に鍛冶職を営む父正太郎・母セツ子の三男(姉一人)の兄に生まれ...

山口先生は一九二(明治四四)年四月二六日に佐賀県東松浦郡相知町(現唐津市)に鍛冶職を営む父正太郎・母セツ子の三男(姉一人)の兄に生まれ...

山口先生は一九二(明治四四)年四月二六日に佐賀県東松浦郡相知町(現唐津市)に鍛冶職を営む父正太郎・母セツ子の三男(姉一人)の兄に生まれ...

山口先生は一九二(明治四四)年四月二六日に佐賀県東松浦郡相知町(現唐津市)に鍛冶職を営む父正太郎・母セツ子の三男(姉一人)の兄に生まれ...

山口先生は一九二(明治四四)年四月二六日に佐賀県東松浦郡相知町(現唐津市)に鍛冶職を営む父正太郎・母セツ子の三男(姉一人)の兄に生まれ...

昭和時代の校長であり、現在の県立船橋高等学校の基礎を創ったと評価できる。いわば「伝統」を創造したともいえる。現在の船高は、たんなる中間管理職として文部科学省の教育行政などに従っただけ、という印象のある校長とは違っている。

山口先生の船橋高校への教育の考え方は、千葉県立船橋高等学校 学校創立五十周年記念誌に掲載されている「回想 荒廃の中」に示されている。それを紹介する(は原文の省略)(は筆者の要約)。

「荒廃の中から、まず感じたのは校舎が非常に荒廃していた。運動場(は)雨が降れば水がたまり、生徒が船遊びをする程であった。戦後三年がたつてはたけりとも、校舎内に数名の職員が家族とともに居住していた。校舎内を職員が飼っていたワトリが闊歩し、廊下の荒れに洗たく物も、学校の空気としては職員生徒は落着いて、このままではいけない、何とかして立ち上っていくなくてはならないという気迫のようなものがあった。

「図書館教育を中心に(従来からあった木造二階建てを改装して図書館にした)。戦後、国内の学校図書館で初めて開架式にした。これは当時話題となった」

「教職員住宅の建設(現在の二スコートの北側の場所に職員住宅を新築したが、当時、優秀な教員をあつめるためには必要などであった)」「運動場の整備・拡張(建設省(現国土交通省)関東地方局との交渉による)運動場(現第一グラウンド)の整備と敷地拡張のための隣接家屋の買取交渉やそのために原田局、白井建設、PTAなどの支援と協力を得た。

「勉強」當時は、戦争中疎開してきていた優秀な生徒が多勢いたが、食糧事情 交通事情がよくなくなると、ほとんどの生徒、面高高校に転校していった。これは止めるべくもなかった。地元中学校の組織は千葉高に進み、第一、第二編級が船高に来るのが現状であったので、各中学校 PTA の会合に出ては優秀な生徒を船高に入れてくれる

よう協力を依頼した。

進歩といえば、当時はやはり東大第一主義であったが、前述のような状況中でも生徒の勉強意欲は高く、昭和四四年に八、一五年には現役で三人東大に合格したのをはじめ、順次東大に入ることになり、その他東大、一橋大、千葉大など国立大にも合格し、地元への理解を深まり、進歩率も上がって行く。昭和六十年頃を転機に、千葉高に次いで勉強、運動の両面をぐんぐん頭角を現していくのである。

「政治活動」勉強の方でも成果を上げはじめると同時に、生徒達の中には時の情勢に敏感に反応する者も多くなり、校内で反戦的な政治活動が急速に芽生えていた。特に、昭和二十五年から五六年にかけて校内の左右の対立がはげしくなり、生徒会では毎日のように論争がくり返された。授業料値上げ反対や反戦のビラが校内や玄関口に配布され、活動家生徒のアソビが市内にあり、そこでビラが作成されて学校でまかれ、という状態がつづいた。ちなみに朝野野郎に警察やジープがひんぱんに往来するに生徒は敏感な反応を示した。このため校長長は、こうした反戦学生との面談、論争が毎日おこなわれることになった。

しかしこうした生徒は少数で、学校全体としては向学の手当が保たれて、外部から見れば船高の危機と写ったかも知れないが、内部にはむしろどうしたかたきな動きの中、船高内部には、穏健で質実な、しかも鋭敏な風が確立していったというべきで、船高が飛躍するための一つの悩みであった。この洗礼を受けたことは、経験であった。この当時の活動家たちは、現在みん国立派に成長して活躍している。

「パイオニア・スピリッツ」の学校の特徴は、第一印象でもあつたが、新しい時代を切り開いていくのだという開拓精神、フロンティア、パイオニア・スピリッツにあると思う。

「米軍(日本占領の連合国軍の中心はアメリカ軍であった)の要請を受ける(戦後六三制の発足にもない)GPOB(千葉軍政部は船高を六三制教育の一モデル校としたと考へた)という、その強い働きかけがあつたが、山口校長はアメリカの教育制度の長所を取り入れたが、日本の旧制中学校・旧制高校の長所と新制高校をミックスしたと考え、軍政部の要請は断つた。

「運動クラブ活躍」勉強の方でもよく、優良が上がり始める。運動場の整備も進む、優れた体育の指導者を集めることも成功し、その結果、バレーボール、陸上競技、野球部がほぼ顕著な成績をあげた。

戦後の混乱と荒廃の中から新しく船高が何となく立ち上がることもが苦しみながらその苦悶の中から道を切り開いてきた時代であった。そうした中で教師達はよく飲みかきよく働いた。職員会議では白熱した議論が展開された。生徒達もまた左右入り乱れて校長住宅へ押しかけ議論がつづけられ、生徒会でも徹底した教師がおこなわれた。これは忘れられないことは、教師も生徒も相互理解を目標に、とことん納得するまで議論をしたことである。生徒達は個人攻撃や破壊的な行動はいささうな面もなく、両方登壇と論争が展開され、いささうな面もなく、私の在任中、退校生は皆無に近い。先生方も止めさせろという議論はしなかった。思えば、フアイトに富み教育的熱情にあふれた教師達にとりかかれた時代であった(二三〇三四頁)。

過去を振り返るとき、人は過去を美化しがちであり、またこの文章を書いたときの時代状況(例えは一九〇年代後半頃から使われた「反戦〇〇」という語は一九五〇年前後に使用されていなく)など、いくらかバイアスがつかかかっているもの、この「回想」は山口先生の教育の考え方や県立船橋高校の愛情を示しているものもある。それが山口校長の理解するためには山口久太「わが青春」その光と陰の中で(一九八二年一月)がある。そこで山口先生は「教育は人なり」という、教育を大切にしよう、教師の努力も不慮でなければならぬ。父母・子女の信頼にたえ、各個の可能性を最大限まで引き出すために教師は燃えるような使命感をもって聖職をなしてほしい」と思ふ。「聖なる職業としての心構えと(教職員)の思想」総合活動は矛盾するものではないと信じる。今までの人生で私に尊い教訓を残し、強い影響を与えてくれた偉大な教師が四人いる。父母、下村湖久先生、島田徹氏である。下村湖久先生は中学の恩師であり、この人によって私は教育者として開眼をうけた。昭和二十一年六月、細原知事として戦死された島田徹氏は千葉県内政部長時代につかえられたが、人間のまま道にたが私にとつて最も偉大な教師であった(二〇一〇三四頁)と仰る。

ここで特に下村湖久(虎六郎)について補足しておきたい。下村物は「日本ファシズム」の時代に「次郎物語」(一九四年以降に刊行)を著した。少年「次郎」は人生を深く考えるようになり、精神的成長を遂げていく。さらに軍国主義の影が濃くなるなか、旧制中学生となり、自由を擁護する精神を尊重し、思想統制やその圧迫に反抗していく。この作品は下村湖久の思想をあらわ

したものであった。下村湖久は山口先生が旧制唐津中の二年生時の校長であり、その後も下村湖久の教えを受け、影響を受けた。その後、山口先生は一九五(昭和二七)年九月に当時一選制であった県教育委員会委員に立候補し、当選し、一月一日に船橋高校長を就任した。教育委員終了後、一九五(昭和二七)年四月に創立された習志野市立習志野高等学校の初代校長に就任した(一九六七年まで校長を勤める)。同校の勉強とスポーツの発展を指導し、同校が野球、サッカー、ボクシングなど全国的に著名な活動の基礎を築いた。六七年四月には千葉県顧問となり、六九年八月、東海大学の創設者松前重義に招かれて、同大学第一高等学校校長となり、七年に同大学体育学教授兼体育学部長に就任した。そして千葉県八千代市に一九七七年二月、新たに創立した八千代松陰学園理事長・八千代松陰高等学校校長に就任した(八四年四月には新設された同中学校の校長にも就任)。同校の命名をした山口先生は籍末、長州(山口県の優れた教育者でもあった吉田松陰の理を現代に生かそうとしたものであった。ほかにも山口校長は冷戦のなかでもスポーツ外交に尽力し、日本体育協会の日本代表派遣団長として北朝鮮、日本東ドイツなど諸外国を訪問した。さらに日本体育協会理事・副会長や国民体育大会委員会委員長などを歴任した。そうした功績によって一九七四年に藍綬褒章、八二年に勲三等瑞宝章を受けている。その後、病をえて一九九二年七月二日に逝去した。

山口校長はスポーツ・教育界で発言を始めたが、そのことに批判的な向きも少なくはなかったと思われるが、最後に意見を述べると、先生の教育指導の思想・実践は「リベラル(自由・公正などを尊重する考え)」と「保守(伝統・権威などを尊重する考え)」が同時に内在した稀有なものであったと思える。守野重規、保守主義とは何か「反フランス革命から現代日本まで(二〇一六年六月、中公新書)の見解を参照。

参考文献と資料:山口久太「わが青春」その光と陰の中で(一九八二年一月)学校法人八千代松陰学園発行。同「目で見める私の人生行路」(一九八五年七月)同学校発行。『千葉県立船橋高等学校 創立五〇周年 記念誌一九〇七年七月』市立習志野高等学校 習志野高校六〇年(二〇一八年三月)千葉県立船橋高等学校 通史編 近現代三「第一編」第一章二〇一九年三月(注) 本稿の執筆にあたり、資料の提供をいただいた八千代松陰学園と市立習志野高等学校に感謝します。

た立ち上がることもが苦しみがながらその苦悶の中から道を切り開いてきた時代であった。そうした中で教師達はよく飲みかきよく働いた。職員会議では白熱した議論が展開された。生徒達もまた左右入り乱れて校長住宅へ押しかけ議論がつづけられ、生徒会でも徹底した教師がおこなわれた。これは忘れられないことは、教師も生徒も相互理解を目標に、とことん納得するまで議論をしたことである。生徒達は個人攻撃や破壊的な行動はいささうな面もなく、両方登壇と論争が展開され、いささうな面もなく、私の在任中、退校生は皆無に近い。先生方も止めさせろという議論はしなかった。思えば、フアイトに富み教育的熱情にあふれた教師達にとりかかれた時代であった(二三〇三四頁)。

創立百周年記念野球招待試合を終えて

令和二年十月二十五日(日)、船橋市民球場にて、「創立百周年記念野球招待試合」が行われた。対戦校として、神奈川県立湘南高等学校をお迎えした。湘南高校は言わずと知れた神奈川の進学校であると共に、運動部活動でも数多くの実績を残している「文武両道」を貫く歴史のある学校である。特に野球部は、過去甲子園に三回出場、昭和二十四年(一九四九年)の夏の甲子園では全国制覇をしている。現在でも強豪ひしめく神奈川県において、上位進出をするなど存在感を示している。



試合が始まると、和やかな記念行事ムードは変化した。およそ七〇年前の先輩たちの仇討ちとばかりに気合いの入る船高野球部に対し、返り討ちにせんと息巻く湘南野球部。球場は公式戦さながらの緊張感に包まれた。

試合は初回、先攻の湘南高校がホームスチールなどを含めた鮮やかな速攻で先制、五回を終わった時点で三対三の同点、息詰まる接戦となった。しかし終盤、船高守備陣の乱れをつかれ、湘南高校打線が自力を發揮、対する船高攻撃陣は八回以降、湘南高校の力のある三投手の継投に抑え込まれ、結果は四対十で船高の敗戦となった。船高にとつては、六十八年前の雪辱を果たせず残念な結果となったが、結果に最後まで全力を出し続ける両校の対戦に、観戦していた来賓の方々からは、惜しめない拍手が送られた。

我が船橋高校野球部は、昭和二十七年(一九五二年)、春季千葉大会で初優勝し、関東大会に進出した。その初戦の相手が湘南高校であり、本校が〇対一で敗戦している。今回の対戦は、その時の縁に由来してお願いすることになった。

コロナ禍ということで、一時は開催が危ぶまれたが、様々な方々の協力により、感染防止策を万全に施しながら、来賓以外は無観客ということで無事開催に至った。

当日は素晴らしい天候に恵まれた。両校のシートの後に行われた開会式では、船橋高校・酒匂校長、湘南高校・稲垣校長の両校長の挨拶に続き、松戸徹船橋市長からもお言葉を賜り、最後に野球部主将・筒井選手の手強い宣誓が行われた。また、試合開始に先立っては、本校百周年記念事業実行委員会委員長である、前船橋市長・藤代孝七氏による始球式が行われた。

試合が始まると、和やかな記念行事ムードは変化した。およそ七〇年前の先輩たちの仇討ちとばかりに気合いの入る船高野球部に対し、返り討ちにせんと息巻く湘南野球部。球場は公式戦さながらの緊張感に包まれた。

試合は初回、先攻の湘南高校がホームスチールなどを含めた鮮やかな速攻で先制、五回を終わった時点で三対三の同点、息詰まる接戦となった。しかし終盤、船高守備陣の乱れをつかれ、湘南高校打線が自力を發揮、対する船高攻撃陣は八回以降、湘南高校の力のある三投手の継投に抑え込まれ、結果は四対十で船高の敗戦となった。船高にとつては、六十八年前の雪辱を果たせず残念な結果となったが、結果に最後まで全力を出し続ける両校の対戦に、観戦していた来賓の方々からは、惜しめない拍手が送られた。

湘南高校も来年、百周年を迎えるであろう。千葉・神奈川で共に「文武両道」を貫き、歴史を刻んできた両校がこのような形で交流できたことを大変嬉しく思う。両校のOB会長が当時の思い出を語りながら後輩たちのプレーに目を細めていた姿が印象深い。次の百年も引き続き、両県において、ともに輝き続ける学校であってほしいと、未来の後輩たちに思いを馳せた。

今回の記念試合開催にあたり、ご尽力いただいた全ての方に感謝をしたいと思います。

(船橋高校野球部部長・増田雄一 平成八年卒)

百年史有償頒布のご案内

百周年記念事業で編纂し来年3月発行予定の『千葉県立船橋高等学校百年史』を、ご希望の方に実費で有償頒布します。希望される方は、下記要領でお申し込みください。

なお、記念事業へ3万円以上のご寄付をいただいた個人の方には、無償にてお送りいたします。

『千葉県立船橋高等学校百年史』案内

本校史と百周年記念事業の2部構成、それに資料編を加えます。上製本700頁縦書2段組みです。本校史については、過去の記念誌・校史・資料を基本に100年を25年ごとに4区分し、それぞれ年表編・記録編・解説編に分けて展開、年表編にはその年々の主な世の中の出来事と世相も示します。

船橋大神宮に船橋町の人々の要望を受けて創設され、公立移管となり終戦を迎えるまでを語る「Ⅰ 大正・昭和前期の船中(1918～1945)」、戦後の荒廃の中で新制高校として再出発し、教育環境を整え、新校舎が完成し、その中で生徒と職員と学校の成長を語る「Ⅱ 昭和中期の船高(1946～1970)」、地域から高い評価を受けて進展していくとともに、学校教育を振り返り、冷静な視点でその状況を見直す「Ⅲ 昭和中期の船高(1971～1995)」、千葉県・文科省からの要望や指定を受け、学校として取り組み、その期待に答えていく「Ⅳ 平成の船高(1996～2019)」、現在の教育活動の状況とコロナ禍での取り組みを詳しく報告する「Ⅴ 令和の船高(2019～)」が本校史の大きな流れになります。

記

方法：1冊につき1通、**往復ハガキ**の往信に「百年史希望」と明記し、「郵便番号・住所・電話番号・氏名・卒業年組」をご記載の上、返信宛名もご記入いただき、下記宛てお送りください。

〒273-0002 千葉県船橋市東船橋6-1-1 千葉県立船橋高等学校 百周年事務局

期限：令和3年1月31日

- 100冊以上を予定しておりますが、限りはありますので、ご希望多数の場合は先着順とさせていただきます。
- お申し込み集約後、お渡しの可否、お渡し可能な場合はお支払い方法と期限を、返信ハガキにて連絡いたします。
費用：8,250円+送料750円
- お支払い確認後、完成しましたら出版社から直接送付いたします。

お問い合わせ：千葉県立船橋高等学校 百周年事務局
電子メール funaobog@gmail.com
ファクシミリ 047-426-0422
※事務局員は母校教員が務めており、授業中は生徒への対応がありますので、電話でのお問い合わせはご遠慮ください。



儀式垂れ幕 3.4m×7m

百周年を機に、これまでに作成や購入したもの



専心研学旗 140×210cm (安藤前校長寄贈)



大型扇風機 75cm (2機)



大型扇風機 100cm (4機)



プロジェクター&スクリーン(全ホームルーム分27セット)

おたより彼れ是れ

山口 雅美(昭和40年卒)

同窓会だよりに記載されましたオーケストラ部の前身器楽部に所属して居りました。この9月に当時の2年生、1年生の後輩から、半世紀ぶりの音信があり、遠い記憶にあった当時の活動についてメール交換しました。創立年は私も初めて知りました。

池田 美佳(平成4年卒)

9月の市民剣道大会団体戦会場で船高生チームを見かけました。30年前と変わらない雰囲気になりました。

生駒 恵子(旧姓湯浅)(昭和42年卒)

県船時代に服部先生にご指導いただいた体操部。その後も新体操のトレーニングにはげみ、70才をすぎても11・中学生的のコーチとして現役。2/11は新年パーティの大会というも重なり、参加出来ず申し訳ありません。

片桐 順子(旧姓飯田)(昭和37年卒)

私たちが生まれた年は戦争中、赤ちゃんで何も覚えていません。でも戦後の貧しい時代に平和教育を受けてきて、あわせてです。今年で「長寿」を迎えます。船高の友は心の財産です。

須合 賢一(昭和61年卒)

今年転入の、私と同じ仕事チームの一人が、船高卒でした。大阪での生活が長くなりましたが身近に船高卒が2人もおりうれし限りです。100周年記念事業の成功を祈念しています。

安富 伸子(旧姓藤竹)(昭和34年卒)

在学中音楽の田沼先生より、家に楽器のある人は持つて来て下さいとの依頼あり叔父の古いヴァイオリンを持って登校したのを思い出しました。オーケストラ誕生の元だったでしょう。土曜日の午後、同級の上村さん解説のレコード鑑賞の集いも楽しみました。音楽室がなく講堂のステージの上で授業、コーラスの練習をしました。

石山 伽耶(旧姓金)(平成14年卒)

100周年おめでとうございます。卒業しても誇れる母校とのつながりが嬉

しいです。

花島 理典(昭和48年卒)

創立百周年、Facebookで同窓生の活躍などを目にとると、各方面で活躍されている方々がいるんだと感心いたします。同窓生ということで、これを機に益々、多くの仲間と手を携えて進んでいければと思います。

水野 恵子(旧姓石山)(昭和52年卒)

同窓会だよりをなつかしく拝読させていただきました。先生方や仲間の顔を思い出し、幸せな高校時代を過ごすことができたことへの感謝の気持ちが改めてわいてきたこの頃です。ありがとうございます。

高橋 洋子(旧姓額賀)(昭和49年卒)

昨年膝をわるくして、日常生活が少し不便になりました。でも週3回動いている保育園の仕事は続けられています。たくさん孫ができて、『はあば』とよばれています。

吉田 智恵子(旧職員)

100周年おめでとうございます。記念演奏会も楽しみにしております。船橋高校の益々のご発展をお祈りしております。

小林 洋子(旧姓露崎)(昭和46年卒)

高2の11月に修学旅行で行った京都の紅葉の素晴らしさ。今も11月になると、京都へ行きたくになります。昨日は思う存分、美しさを堪能しました。

牟田口 政暉(旧名正明)(旧職員)

いつも同窓会便りをお送り頂きありがとうございます。栄えある100周年記念おめでとうござります。益々のご発展を祈念しております！

三村 義広(昭和44年卒)

卒業の1969年前後はカオスの時代でした。その頃の若年世代を評論した『青春の終焉』を読み直し、シニアとなった今、どうアクティブに生きるかを考えています。

伊藤 光子(旧姓小川)(昭和30年卒)

毎回、同窓会だよりが届くたびに懐かしい青春時代を思い出し元気をもらっています。ありがとうございます。

内田 裕美(旧姓天野)(昭和61年卒)

先輩、後輩とのすてきな出会いに感謝

しています。今年は同級生との再会がたくさんありそうに嬉しそうです。

増井 由香(平成19年卒)

平成19年卒の同窓会委員長をやらせていただいた。増井と申します。ちょうど2019年の年末に第2回の学年同窓会を開いたこと、ずつと出てきたかたが本校同窓会に、100周年の勢いに押され、参加させていただきたく思います。どうぞよろしくお願致します。また、開催ありがとうございます。

野澤 正明(昭和46年卒)

次世代機能材料を担当し現在も製造メーカーで活動しております。そのため色々な意味でモノ作りのコンセプトが変わっていくのを肌で感じております。(日本の産業構造も変化しつつあります)

大野 晏且(昭和36年卒)

独特のカリキュラムを開発し、指導の徹底化を図り、生徒たちの自己実現を保障してくれた母校の100周年、誠におめでとうござります。

大串 清(旧職員)

公職を退いてから11年目。その間、筑波山で「ガマの油売り」の修業を行い、師範の資格を取得しました。今は首都圏で大道芸人として活動しています。最近では、小田原城や国立劇場で演じました。

大塚 文枝(昭和34年卒)

来年80才を迎え元気にしています。趣味やボランティア、特に旅行が好きで海外・国内と楽しんでます。友人との歴史散歩・ウォークの会に入り歩くことも多々あります。楽しい人生を!!

堀内 克己(昭和33年卒)

運動会でクラス対抗による仮装行列参加、今でも忘れぬ中学中の楽しい思い出。国枝 喜英雄(昭和35年卒)

一日一生一刻一刻を大切に老体に鞭打ってカントリーミュージックを唄い続けて60年!!アマチュアバンドやライブハウスで唄っています。

鶴見 一義(昭和46年卒)

混声合唱団で歌っています。合唱祭や

演奏会で時々船高OB/OGの合唱活動を耳にします。皆それぞれに頑張っていることを聞くと嬉しくなります。

友時 美紀子(旧姓浅沼)(平成7年卒)

下の娘が幼稚園に入園して落ち着いたので、8年ぶりに社会復帰致しました。近隣の病院にて勤務しておりますが、職員の方の中にお身内が船高OBという方もおられ、船高同窓生であることを改めて嬉しく感じました。

田中 穂積(昭和46年卒)

2年毎に学年同窓会を行っており、参加者の近況はわかるが、約1/6(参加者以外)の同窓者はどうなっているか、気になる歳になってきました。

家人 弥生(旧姓平野)(昭和49年卒)

創立100周年おめでとうござります。同窓会だよりを読んでおりますと懐かしさが増してきます。65歳になりましたが、まだまだ仕事を続けられることに感謝しています。

照屋 壮仁(昭和62年卒)

S59年入学当時、1年C組の担任だった高野(旧姓広瀬)むつみ先生(通称むつちゃん)が、ご実家の跡を継いで素敵な尼さんになられています。お正月は初詣をして、ご朱印も頂いてきました。いつまでも若々しく、むつちゃん先生のままでした!

清水 裕一郎(平成19年卒)

令和元年12月の学年同窓会には参加することができませんでしたが、皆様いかがお過ごしでしょうか?私は北九州の地で多忙な毎日を送っております。お互い健康には気をつけて、元気に頑張ってくださいませ。

国吉 薫(旧姓牛見)(昭和49年卒)

縁あって広島に住んで30余年、「この世界の片隅に」のアニメ映画監督片淵須直さんが5つ下の同窓生と知って嬉しい驚きです。百周年記念式典で現役生に講演されるとのこと、うらやましいです。私も聞きたい(笑) 創立百周年おめでとうござります。

ご意見、ご感想、次号本欄掲載希望、住所変更等ありましたら、官製はがきメールにてご連絡ください。または表紙上部に記載しています。

現役・卒業生合同演奏会

創立百周年記念関連事業について
予定した記念演奏会は、新型コロナウイルスの影響により練習を開始することが困難なため、二〇二一年一月の開催は中止しました。

合唱・オーケストラへの参加表明をいただいた三百名近くの皆さんからは、今回の中止はやむを得ないが社会情勢が落ち着いたらぜひ開催してほしい、との声をたくさんいただきましたので、開催時期は未定ですが延期することといたします。なお新しい開催時期につきましては同窓会HPにてお知らせいたします。お問い合わせ

船高記念演奏会実行委員会
fusakoi100day@gmail.com
実行委員長 林 昇志(昭和28年卒)
学校創立の地
「船橋大神宮・客殿」公開事業
通常是非公開の施設のため創立百周年を機に公開事業を企画準備しておりますが、社会情勢に鑑み二〇二一年秋以降の開催を予定いたします。なお新しい開催時期につきましては同窓会HPにてお知らせいたします。

実行委員会事務局長 森 和俊(昭和50年卒)

コロナ禍、如何お過ごしですか。母校も同窓会も百年の歴史の中で特筆すべき年となりました。母校学び舎での充実した学校生活を祈らざるを得ません。

こうした中同窓会だより、今回は少し趣の異なる箇所もありますが、何とか皆さんにお届けできホッと息、振り返れば編集に参画して四半世紀、在校時の宿題か追試でも受けているような思いも抱きつつ、皆さんの温かいハガキが支えます。

母校は百一年目の時を刻み始めています。一年後にいつとも変わらぬ同窓会だよりを皆さんにお届けしたいと思っております。
島崎喜一(昭和48年卒)

